

第 61 回日本母性衛生学会総会・学術集会 (WEB)

テーマ	健やかなる女性の一生 ～生涯を通した女性への健康支援～
大会長	西口 富三 静岡県立こども病院 副院長 兼 周産期センター長
開催年月日	2020 年 (令和 2 年) 10 月 9 日・10 日
会場	アクトシティ浜松 コンgressセンター
参加人数	2,263 名 (参加費納入者) (内訳 会員 940 名 学生 246 名 非会員 1,077 名)
構成	理事長講演・会長講演・特別講演・特別企画・市民公開講座 教育講演 7 題 シンポジウム 4 題 一般演題数 359 題 スポンサードセミナー 7 題



第 61 回学術集会を振り返って

第 61 回日本母性衛生学会学術集会长 西口 富三

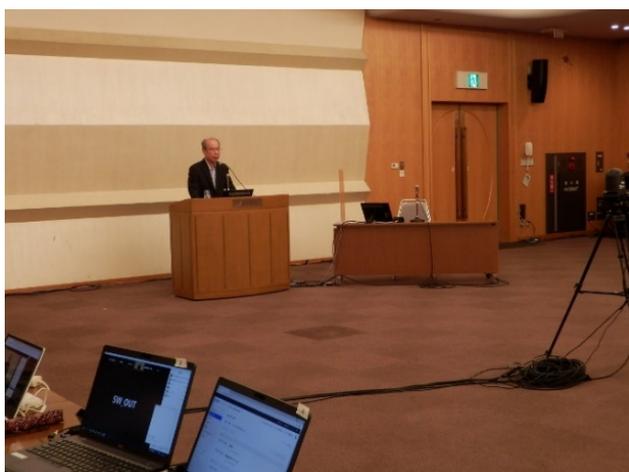
新型コロナウイルス感染症の蔓延状況のなか、多くの学会がWEB開催を選択するに倣い、第 61 回学術集会も WEB 形式での開催となりました。WEB 学会に不慣れな状況下で、会員ならびに運営に携わっていただいた皆様のご理解、ご協力により無事盛会裏に終了することができましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、今回の学術集会では、“健やかなる女性の一生～生涯を通した女性への健康支援～”をメインテーマに掲げ、健全なる母性の発達に向けての健康支援を取り上げました。“幼児期からの愛着形成” (市民公開講座) に始まり、妊娠を迎えるにあたっての準備

“preconception care “(シンポジウム 3)、そして、生涯を通じた健康支援の立場から、” 女性と乳がん “(シンポジウム 1)、“骨盤底ケア “(シンポジウム 2) という流れです。一方、医療トピックスの見地から、COVID-19 に代表される “グローバル社会における感染症とその対策” (特別講演) に関する話題のほか、“着床前診断の抱える生命倫理” や “子宮移植” という新たな生殖医療の展開、“産科ガイドライン 2020”、そして、度重なる自然災害への対応として “災害時における周産期対策” (シンポジウム 4) を取り上げました。視聴された皆さまの認識をさらに深めることができましたら幸いです。

ところで、今回の学術集会では、ふたつの新たな企画を設けました。その一つが、特別企画 “レジェンドに学ぶ” です。表題ですが、“…から学ぶ “か、” …に学ぶ “で迷いましたが、受け身ではなくアクティブであるべきと考え後者を選んだ次第です。次の時代への医療の継続、これは我々に与えられた使命であり、これからの周産期医療を担う若い医療従事者に向けての経験談や助言は大変貴重な経験になるといえます。当初は、産科医および助産師の各立場からお話をいただく予定でしたが、コロナ禍第二波のさなか、お一人が辞退され、さらに、現地収録の予定が台風 14 号の襲来により急遽 WEB 収録となるなど、波乱の連続でした。前回の第 60 回学術集会も台風 19 号の襲来で関先生が大変御苦労されたわけで、今後、学術集会の開催にあたっては予測不能な自然災害への対応が大きな課題といえます。もう一つは、” 乳房エキスパート看護職認定制度 “の最初の研修プログラム認定を得たことです (シンポジウム 1)。本制度は 2020 年度にスタートした一般社団法人日本産婦人科乳腺医学会の認定制度で、女性のライフステージに応じた乳房アドバイザーの養成を目指すものです。今回は 250 名という多くの方が申請手続きをされました。

最後になりますが、今回の WEB 学会を振り返ってみますと、参加者は予想以上でしたが、直接意見交換ができる現地開催のメリットを再認識する結果となりました。配信障害や単位申請手続きでのトラブルなど、いくつか問題点が生じましたが、何とか乗り越えることが出来たこと、改めて皆さまに深謝いたします。



学術集会準備委員一同

第 61 回日本母性衛生学会学術集会 概要 (敬称略)

[理事長講演]	“母性衛生と歯科治療”	正岡 直樹	座長 池ノ上 克
[会長講演]	“周産期とビタミン K”	西口 富三	座長 中塚 幹也
[特別講演]	“グローバル社会における感染症とその対策”	矢野 邦夫	座長 西口 富三

[教育講演]

教育講演 1	“生命倫理と着床前遺伝子診断”	苛原 稔	座長 福島 明宗
教育講演 2	“無痛分娩のリスクとケア”		座長 板倉 敦夫
	1) 硬膜外分娩のリスクとケア-麻酔科医の視点から-	田中 基	
	2) 無痛分娩での助産ケア	今井 晶子	
教育講演 3	“診療ガイドライン産科編 2020 解説”		座長 板倉 敦夫 佐藤 昌司
教育講演 4	“生殖医療のゆくえ～子宮移植を中心に～”	菅沼 信彦	座長 金山 尚裕
教育講演 5	“子癇、妊産婦脳卒中の治療戦略”	大野 泰正	座長 関 博之
教育講演 6	“高年初産婦・超高年妊産婦の抱える健康問題とそのケア”	森 恵美	座長 大橋 一友
教育講演 7	“周産期心筋症 診療の手引き”	神谷千津子	座長 伊東 宏晃

[特別企画]	“レジェンドに学ぶ” ～出会いを重ねて～	池ノ上 克	座長 金子 政時
---------------	----------------------	-------	----------

[シンポジウム]

シンポジウム 1	“乳がんへの対応”	座長 苛原 稔 坂田 清美
	1) 遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の診療の現状～乳がんについて～	西村誠一郎
	2) 妊娠期乳がんの診断と治療	林 直樹
	3) 看護からみた”乳がんを有する妊産褥婦のケア”	神津 三佳
	4) 乳がん治療後のヘルスケア	渡邊 知映
シンポジウム 2	“更年期・老年期を健やかに過ごす：骨盤底ケア”	座長 古山 将康
	1) 閉経前に発症する骨盤臓器脱について	中田 真木
	2) 生き生き暮らすための骨盤底ケア：看護師のケアから始めよう	湯野智香子
	3) 更年期・老年期の骨盤底ケアにおける理学療法士の取り組み	山本 綾子
シンポジウム 3	pre-conception care	座長 北村 邦夫 荒田 尚子
	1) 諸外国の取組から考えるプレコンセプションケア	前田 恵理
	2) OC/LEP がプレコンセプションケアに果たす役割を考える	北村 邦夫
	3) 若年女性、妊婦の栄養-母体および児の将来の健康を目指して-	幸村友季子
	4) 性感染症スクリーニング (ブライダルチェック)・ワクチン	野口 靖之
	5) 内科疾患をもった女性のプレコンセプションケア	三戸 麻子
シンポジウム 4	周産期と災害時対策	座長 菅原 準一 大木 茂
	1) 有事における周産期医療	菅原 準一
	2) 開業助産師が避難所で行った母子支援の実際	赤木 夏代

- 3) 小児精神保健からみた小児の災害時対応
- 4) 災害時における在宅医療児への取組

河島 譲
久保田尚宏

[市民公開講座] 10月10日 WEB 開催

テーマ “幼児期からの愛着形成”

座長 瓦林達比古

演者 1) 乳幼児期からの愛着形成の重要性

相良 洋子

2) 愛着形成ホルモンオキシトシンによる社会的コミュニケーションの障害の改善

山末 英典

[スポンサードセミナー]

1. グリーン光治療による新生児高ビリルビン血症の管理 共催 トーイツ
2. 子宮頸管熟化剤および子宮収縮剤の使用と管理 共催 フェリング・ファーマ
3. わが国における女性ホルモン剤使用と血栓症～2つの調査結果による新しい知見～
共催 ノーベルファーマ、富士製薬工業、日本新薬
4. 脅かされている日本人女性のリプロダクティブヘルス～これでいいのか日本の子宮頸がん予防～
共催 MSD
5. 分娩後異常出血への対応～産褥婦を救いたい 共催 日本血液製剤機構
6. ベトナム、モンゴル、ミャンマー、ルワンダにおける周産期医療向上のための取り組み
共催 医療法人葵鐘会
7. 帝王切開後瘢痕で悩まないためにできること～歓びのための手術 あとで悲しまないために～
共催 ジョンソン・エンド・ジョンソン